



第 124 号

発 行 者
東筑摩塩尻教育会
編 集 者
会誌会報委員会

「共有の時」

東筑摩塩尻校長会長 三澤 正彦



の初任時代を思い出す。

「毎日一枚でいいから、簡単な日案を書いて授業に臨むように。」教頭先生からいただいた助言もあり、メモのようなお粗末なものを用意して数学の授業に臨むのが精一杯だった。

最近になり、当時の教え子達と話をする機会ができ、三十五年も前の思い出話をする事になった。隣のクラスのAくん曰く「今の仕事に着いたのは、あの時の数学のおかげだ。数学を学んだから、工業高校に行つてからも、勉強した。」他の学年だった人も、「あの数学の授業は忘れんな。」と言う。

三学年「二次方程式」根の公式を学ぶ場面。公式をみんなに覚えてもらうためには、どうするのがいいか考えた。そして始めたのは、生徒一人ひとりが暗唱し、クラスで一巡する時間を図り、クラスごとの時間を競うものだった。「今日の〇組は〇分〇〇秒でした。今日ほどの順番ですか。はい、用意いいですか。……二分〇〇秒。」

「これは、今日の最高タイムだね。予想以上に、子ども達は燃えた。休み時間には、友達と練習する姿が見られたと担任の先生が教えてくれた。単元もじきに終わり、半年も経つと受験の時期になったが、解を求めたために公式を使うのは抵抗がなかったようだ。

こんなことを三年間同じように繰り返したのだが、三十年以上たつても話題になるということはどういうことだろう。

- ・ 経験は浅く、力もないが、年の近い者が一緒に学習の場にいたせいかな。
- ・ ミニ・クラスマッチのような感覚で競い合うことが楽しかったのか。：クラスが一丸となって、教えあい、励ましあい、苦手な子が言うのを祈るように見つめる姿は確かにあった。
- ・ 数学が苦手な生徒でも、これだけは確実に授業参加できたせいかな。：数

根の公式

$$y = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$$

学は得意でなくとも、人一倍早く暗唱できる子もいた。
・ 公式を身につけ、解が求められる自信につながったのか。
とても数理を追究する入り口になつたとは思えないし、分析もろくにできないわけだが、覚えていてくれる、共通の話題としてくれる。生徒によつては、あの学習が、その後の進路のきっかけになったとまで言ってくれる者がいる。

その授業で人生が変わる子がいるかもしれない、ずうっと覚えている時間になるかもしれない、それが、これから行われる四十五分あるいは五十分になるかもしれない可能性を持っていることは事実だ。様々な課題が目の前に立ちほだかる教育現場、明るい話も少ないかもしれない。しかし先生方、臆することなく、子ども達の前に立つ時にその可能性を切り開いていつてほしい。私たちの日々は子ども達の生涯を方向付けるものになるかもしれないということを忘れないでほしい。

今でも、あの時間、静かな教室で公式を暗唱する声が聞こえ、順番になつた生徒の紅潮気味な顔、それを見つめる周りの顔が鮮明に浮かんでくる。

(広丘小学校)

特集

◆我が校の地域連携教育 「コミュニティスクールを見据えて」

『地域とともに歩む』

麻績小学校

先日、秋空のもと本校でも運動会が開催されました。その運動会の最後には、麻績村で古くから愛されている「番場踊り」を踊りました。児童が輪を作り、その一番外側を村の方々と同じように輪を作って踊る様子は、まさに麻績村が地域全体で学校を見守っている様子を象徴しているようでした。

本校では、コミュニティスクール（以下CS）はまだ立ち上がっていませんが、その前段階として、現在取り組まれている、地域と連携した活動について一部を紹介していきます。

【図書まつり】

おみ図書館は学校図書館でもあり、公共図書館でもあります。そのため子どもたちが授業中に利用する時にも地域の方が利用しています。また図書館のプレイルームで、地域の方々がお休み時間等を利用して頻りに読み聞かせを行ってくださっています。

このおみ図書館を中心にして、毎年「図書館まつり」が行われています。少しずつ形態は変わってきていますが、地域の方々との交流することを目的に、ボラン

「おみっこ元気くらぶ」

イアの皆さんの企画による様々なブースを子ども達が縦割りの交流グループで巡っていきます。一部紹介すると、紙しばいの会による紙芝居、読み聞かせボランティアによるお話し会、PTA文庫部によるしおり作り、アルプホルン・エコーの方とアルプホルン体験。地域おこし協力隊には、紙漉きの体験をさせていただくなど多岐にわたっています。

六年生を中心に、各グループで地域の皆さんと楽しくふれあっている姿が見られます。地域の皆さんに大変お世話になっている行事です。

【おみっこ元気くらぶ】

麻績村教育委員会を中心に「放課後子ども教室」「おみっこ元気くらぶ」が定期的に開かれています。

「放課後子ども教室」は水曜日の放課後に、「おみっこ元気くらぶ」は休日を中心に希望者対象で企画されています。

「放課後子ども教室」は主に学校の体育館で体を動かすことを目的に開催され、

毎回子ども達の楽しそうな声が響きます。十月は『キャッチング・ザ・スティック』『じゃんけんサッカー』が行われました。「おみっこ元気くらぶ」は学校を飛び出



し、自然や文化に触れる企画が多く、十月は善光寺街道歩き

旅推進局の方を講師に迎え、『善光寺街道オリエンテーリング「すごろく巡り

②』で、麻績村内の史跡や景観を歩いて巡りました。もう一回は『麦まき&スイートなポテトを食べよう』で、昔の遊びの会の皆さんと麦をまいたり焼き芋をしたりしました。今までの企画にも子ども達は楽しく参加しています。

信州大学YOU遊未来の学生の皆さんにもボランティアで子ども達に関わっていただいています。様々な子ども達がいるので、学生の皆さんも大変ですが、明るい笑顔で優しく接してくれます。小学生も普段接することのないお兄さんお姉さんと交流でき、楽しみにしています。

【昔の遊び】

「昔の遊びの会」の皆さんには、様々な場面でお世話になっていきます。図書館まつりでもブースを出していただいたり、たたきごま大会の練習にもご指導にお願いいただいたりもします。村民運動会の種目にも竹馬や缶ぼっくりなどがあるので、運動会が近くなると休み時間に優しく子ども達に教えてくださいます。子ども達も笑顔ですが、来ていただいているお年寄りの皆さんも笑顔です。

ここに紹介したのはほんの一部です。



たくさんの方々に見守られ、麻績小学校の子ども達は幸せだなと感じます。これらの皆さんの活動がさらに充実されていくようなCSになるように、今後推進していきたいと考えています。

(吉江哲也)

我が校の信州型 コミュニティスクール

生坂中学校

生坂中学校は全校生徒四十四名、教職員十五名の小規模校です。

信州型コミュニティスクールの推進では、学校運営への地域の方の積極的な参加が求められています。

本校では、『地域に学び、地域から学び、地域に貢献する』という目標に向け、以前から、総合的な学習の時間において、学年ごとの学習と学年の枠を超えた縦割りの学習を柱に、多くの地域の方にかかわっていただきながら学びを進めています。学年別では、一学年と二学年が村の特産品であるシイタケと巨峰に関する学習を、三学年が福祉に関する学習を行っています。

生徒と教職員が、畑や農園、福祉施設や個人のお宅等を訪問し、地域の方や関係者等から話を聞き、ともに活動する中で、村の歴史や産業、生産者の方の仕事や生産物への思いやこだわり、地域の方の思いや願い、中学生や学校へ期待する